

ブランディングの4つの法則…法則1：独自性の発見と創造

独自性は「勇気」である



独自性＝協調性のなさ、これって本当？

前は「独自性は想像力です」ということを書きました。想像力を広げる5つのポイントについても少しだけ触れました。あなたは「独自性」という言葉からどんな印象を持たれましたか。中には協調性のなさという意味を含んでいると感じられる方が少なからずいます。言い方を変えれば、「独自性」に孤立するイメージがあるのかもしれませんが。

日本人はどちらかというと自分の「独自性」をアピールすることが苦手です。アピールすること自体が恥ずかしいという精神性も根強く残っています。“出る釘は打たれる”という言葉があるように、“みんなと肩を並べ、みんなと同じ事をすれば間違いない”という子供の頃からの経験がそうさせているのかもしれませんが。

本来の「独自性」は協調性を失うことではありません。“個”としての価値に基づき、主体的に自立すること、“個”と“個”がお互いを尊重し、認め合うこと、そしてひとつの目的に向かい“個”と“個”が繋がること。これが「独自性」の本質です。しかし、いざ「独自性」を中心軸として行動すると、多くの困難が立ちふさがることも事実です。

ストラビンスキー「春の祭典」の初演は大酷評

ましてや、ご商売やビジネスの中心軸に「独自性」を据えようとすると、様々な不安が生まれます。“失敗するかもしれない”、“売上が落ちるかもしれない”、“お客様が減るかもしれない”、“批判されるかもしれない”……。その結果、これまでの展開に見込みがないとわかっていても、従来の無難な方向に落ち着いてしまうことが少なくありません。

新しいことの始まりには、当然アレルギーが発生します。しかし、アレルギーは変化のために必要なプロセスなのです。ストラビンスキーのバレエ音楽“春の祭典”をご存知ですか。TV朝日の“題名のない音楽会21”で20世紀の名曲ベスト30に選ばれた楽曲です。

しかし、“春の祭典”が、1913年にバリーで初演された時には、徹底的に酷評されました。これまでになかった複雑なリズムと不協和音、従来のバレエにはない衣装と振付に、観客の多くはいらだち始め、客席からはブーイングが起り、演奏が聞こえなくなったほどです。一部の称賛派と大半の批判派の間にはけんかも始まりました。振り付けのニジンスキーは、舞台上で踊るバレリーナのために、舞台の袖で手拍子を打っていたといわれています。

勇気を後押ししてくれるふたつの力

「独自性」を貫抜するには「勇気」が必要です。「勇気」という言葉を辞書で調べますと、“いさましい意気。困難や危険を恐れない心(三省堂・大辞林)”と書かれています。人がどういう言おうとも、どんなに馬鹿にされようとも、自分の信じる道を歩むことが「勇気」です。ブランドには、愚直といわれるような一途な気持ちが不可欠なのです。

「勇気」を後押しするものが二つあります。ひとつは、“好きなことをしたい”という素直な気持ちです。もうひとつは“人を喜ばせたい、世の中の役に立ちたい”という強い思いです。使命感と言ってもいいかもしれませんが。これがくじけそうになる気持ちを支えてくれます。そして、一人、二人とあなたの「独自性」を支持する人が増えてくるのです。

「勇気」を持って「独自性」を貫いた結果が、売上となって跳ね返ってきます。こう言うと“そんなことはきれいごとだ、世の中そんなに甘くないよ”と反応される方がいます。確かに簡単ではないでしょうが、それで諦めていいのでしょうか。いまブランドといわれる多くの事例がそうではないことを教えてくれています。

英国の女性歌手、スーザン・ボイルさんの勇気

ご商売やビジネスとは違いますが、「勇気」で思い出すのは、スーザン・ボイルさんという英国の女性歌手です。彼女が世に出るきっかけはTVのオーディション番組でした。中年の普通のおばさん、メタボ気味の体型、やぼったい服装、田舎くさいパーマ……。客席からは笑い声が上がり、プロの歌手になりたいという彼女の言葉に、審査員もあきれ顔でした。

しかし、ボイルさんが歌い始めると、会場の雰囲気は一変します。彼女の声の圧倒的な力と美しさに、観客は一瞬のうちに引き込まれ、審査員は驚きの表情を見せたのです。歌が終わった時、会場は大きな歓声と拍手に包まれ、観客はスタンディングオベーション。辛口の審査員3人全員が“イエス”のボタンを押し、彼女に最高の賛辞を贈りました。

これがYou Tubeなどに転載されると、9日間で1億回を超えるアクセスを記録。決勝は準優勝でしたが、その実力が認められ、幼少の頃からの夢だったCDデビューを果たしました。彼女はこう言っています、“みんながどう思っていたかはわかっている。けど、歌えればいいんでしょ？ミスコンじゃないんだから”。この言葉、まさに勇気だと思いませんか。